

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学年	実施学校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	第 6 学年	19	1,050
中学校	第 3 学年	8	1,081
合 計		27	2,131

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題：国語 A、算数・数学 A
- ・主として「活用」に関する問題：国語 B、算数・数学 B

(2) 質問紙調査

- ・児童・生徒質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等
- ・学校に対する質問紙調査：指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況等

4 調査方式

全数調査（対象は小 6、中 3）

5 調査期日

平成 25 年 4 月 24 日（水）

II 結果の概要

1 教科に関する調査結果 *全国の平均正答率と比較した江別市の状況

教科	小学校	中学校
国語 A	やや下回っている	やや上回っている
国語 B	やや下回っている	同様
算数・数学 A	同様	やや上回っている
算数・数学 B	下回っている	同様

- 全国との比較では、小学校は算数 A が全国の前平均正答率と同様であり、国語 A、B がやや下回り、算数 B は下回っている。中学校は、国語 A と数学 A が全国の前平均正答率をやや上回り、国語 B と数学 B は同様となっている。
- 全道との比較では、小学校の国語 A、B と算数 B は全道の前平均正答率と同様であり、算数 A はやや上回っている。中学校は、国語 A、B と数学 A が全道の前平均正答率をやや上回り、数学 B は上回っている。

上回っている	・・・+3 ポイント以上	やや下回っている	・・・-1～-3 ポイント未満
やや上回っている	・・・+1～+3 ポイント未満	下回っている	・・・-3 ポイント以下
同様	・・・±1 ポイント未満		

2 教科ごとの結果及び改善策

<小学校>

「国語」

(1) 学習指導要領の領域等の平均正答率

国語 A：「読むこと」は全国をやや上回り、「話すこと・聞くこと」は同様で、「書くこと」は下回り、「伝統的な言語文化と国語の特徴に関する事項」はやや下回っている。

国語 B：「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特徴に関する事項」は全国をやや下回り、「書くこと」は下回っている。

(2) 課題及び改善策

- ・漢字（乗り物の券）を読むや話し手の意図を捉えながら聞き、助言の仕方について適切なものを選択する問題の正答率が高いが、漢字（委員会をもうける）を書く問題の正答率が低いことから、漢字の指導においては、文の中で意味を理解し書けるようにする必要がある。
- ・必要な内容を適切に引用したり自分の考えを具体的に書いたりする問題の正答率が低いなど、A・B問題ともに、記述式の問題形式に課題が見られることから、字数や使う言葉などの条件に応じて、理由を明確にして自分の考えを書くことができるようにする必要がある。

「算数」

(1) 学習指導要領の領域等の平均正答率

算数 A：「図形」は全国をやや上回り、「量と測定」、「数と計算」、「数量関係」は同様である。

算数 B：「図形」は全国をやや下回り、「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」は下回っている。

(2) 課題及び改善策

- ・計算問題 16－(6＋3) や合同な三角形を書くことができる条件を選ぶ問題の正答率が高いが、分数の乗法 ($2/9 \times 4$) の計算問題の正答率が低いことから、各学年において整数や少数、分数の四則計算について確実にできるようにする必要がある。
- ・図書館の本の貸出冊数と来館者数のグラフや表を見て、インターネットの貸し出し冊数の増減を判断し、そのわけを書く問題の正答率が低いことから、グラフや表から、必要な情報を読み取り、判断した理由を言葉と数や式を使って書くことができるようにする必要がある。

<中学校>

「国語」

(1) 学習指導要領の領域等の平均正答率

国語 A：「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特徴に関する事項」は全国をやや上回っており、「読むこと」は同様である。

国語 B：「伝統的な言語文化と国語の特徴に関する事項」は全国をやや上回り、「書くこと」、「読むこと」は同様である。

(2) 課題及び改善策

- ・漢字「異論を唱える」を読むや段落相互の関係について説明したのものとして適切なものを選択する問題の正答率が高いが、「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す比喩を用いた表現や「かるた」について分かったことを基に、さらに調べたいことを調べる方法を具体的に書く問題の正答率が低いことから、抽象的な概念を表す語句や慣用語、四字熟語などを話や文章の中で適切に使用する機会を増やすとともに、字数や使う言葉などを指定し、理由や根拠を明確にして書くことができるようにする必要がある。

「数学」

(1) 学習指導要領の領域等の平均正答率

数学 A：「数と式」は全国と同様であり、「図形」、「関数」はやや上回り、「資料の活用」は上回っている。

数学 B：「数と式」、「関数」は全国と同様であり、「資料の活用」はやや上回り、「図形」は上回っている。

(2) 課題及び改善策

- ・数量の関係を連立二元一次方程式で表すことや一次関数の表から変化の割合を求める問題の正答率は高

いが、() を含む正の数と負の数の計算 $5 \times (4 - 7)$ やアンケート結果を集計したヒストグラムの傾向を的確に捉え、その特徴を説明する問題の正答率は低いことから、正の数、負の数の四則計算をさらに確実にできるようにするとともに、資料から適切な情報を読み取り数学的に説明できるようにする必要がある。

3 質問紙調査の結果

表の数字は、各質問事項について「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」、「どちらかといえは当てはまらない」、「当てはまらない」のおおむね4つの選択肢の中から、「当てはまる」に該当するものである。

(1) 児童・生徒質問紙

質問事項	<小学生>	<中学生>
	江別市(全国)	江別市(全国)
1 朝食を毎日食べている	84.4 (88.7)	85.2 (84.3)
2 毎日、同じくらいの時間に寝ている	32.9 (37.2)	27.1 (29.3)
3 自分には、よいところがあると思う	25.0 (34.5)	21.3 (23.4)
4 将来の夢や目標をもっている	69.1 (72.1)	48.5 (47.4)
5 読書は好きだ	53.1 (47.8)	53.1 (46.2)
6 家や図書館で、普段(月～金)、1日あたり30分以上読書(教科書や参考書、漫画や雑誌を除く)をする	34.5 (36.6)	33.4 (29.5)
7 普段(月～金)、1日あたり3時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする(テレビゲームを除く)	36.0 (38.6)	28.4 (29.7)
8 普段(月～金)1日あたり3時間以上、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)をする	17.7 (14.9)	15.7 (14.3)
9 授業時間以外に、普段(月～金)1日あたり1時間以上勉強する	52.5 (63.2)	67.5 (68.6)
10 学校が休みの日に、1日あたり1時間以上勉強する	53.2 (57.4)	70.2 (67.3)
11 家で、自分で計画を立てて勉強している	27.1 (25.6)	15.2 (14.8)
12 家で学校の宿題をしている	78.6 (86.5)	62.6 (62.4)
13 家で、学校の授業の復習をしている	30.1 (21.0)	24.9 (17.2)
14 学習塾(家庭教師を含む)に通っていない	58.0 (50.3)	48.5 (39.6)

(2) 学校質問紙

質問事項	<小学生>	<中学生>
	江別市(全国)	江別市(全国)
1 「朝の読書」などの一斉読書の時間を週に複数回、定期的に設けた	63.2 (61.9)	87.5 (79.4)
2 長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施した	100 (65.0)	100 (84.1)
3 児童、生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う	42.1 (36.7)	62.5 (46.1)
4 児童、生徒は、礼儀正しいと思う	36.8 (26.3)	62.5 (35.6)
5 PTA や地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれる	78.9 (57.2)	37.5 (52.0)
6 国語の指導として、前年度までに宿題を与えた	47.4 (82.6)	37.5 (46.7)
7 算数・数学の指導として、前年度までに宿題を与えた	63.2 (84.3)	62.5 (51.5)

(3) 課題及び改善策

- 「朝食を毎日食べている」割合は、中学生は全国平均と同様であるが、小学生は 4,3 ポイント下回っており、「毎日、同じくらいの時間に寝る」割合は、小・中学生ともに全国平均を下回っている。また、「1 日 3 時間以上テレビゲームをする」割合は、小学生は 2,8 ポイント、中学生は 1,4 ポイント全国平均を上回っていることから、保護者と連携して家庭における望ましい生活リズムを確立していく必要がある。
- 「自分にはよいところがあると思う」、「将来の夢や目標をもっている」割合は、中学生は全国平均と同様であるが、小学生は全国平均を下回っており、心の教育の充実や様々な教育活動の中で自尊感情を高める取組を工夫するとともに、児童の発達段階に応じたキャリア教育の充実が必要である。
- 小学生は、「授業時間以外に、普段 1 日あたり 1 時間以上勉強する」、「学校が休みの日に、1 日 1 時間以上学習する」割合が全国平均を大きく下回っていることから、宿題や家庭学習の習慣化の取組を保護者と連携して一層充実していく必要がある。
- 「国語、算数・数学の指導として、前年度までに宿題を与えた」割合は、中学校の数学を除きいずれも全国平均を下回っており、特に小学校は、国語は 35,2 ポイント、算数は 21,1 ポイント全国平均を大きく下回っていることから、授業と宿題とを関連付け、「予習—授業—復習」のサイクルによる学習内容の確実な定着を図る必要がある。
- 「PTA や地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれる」割合は、中学校への参加は年々増えてきているものの依然として少ないことから、本年度から全中学校区に拡大した「学校支援地域本部事業」等を広く周知するなどして、より多くの地域の人材の活用を図っていく必要がある。